

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Includes details for 有限会社 レストケア.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方々に愛され頼りにされるホームとなる為に、地域との関係を大切に、町内清掃への参加や小学校の資源回収に協力している。又、地域の方々に、夏祭りやクリスマス会等のホーム行事に参加して頂き交流を深めている。職員は利用者様の人格を尊重し、安心した生活を送れるように、個々の意向の理解に努め、自立支援に向けた取り組みを行っている。主治医や訪問看護師と連携し、身体面・精神面の健康管理を行うと共に看取り迄の支援体制を整えている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL address.

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Includes details for 特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット.

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は南区の真駒内、様々な邸宅が並ぶ一等地の住宅街に位置し、直ぐ近くに大型の運動公園や大型スーパー、小学校や医療機関もあり、利便性の高い生活環境下に立地している。事業所は新築の鉄筋3階建てで、1階は事務所、2、3階2ユニットで運営し、広く明るい建物内は清潔に保たれ、温かみある快適な住空間に18人の高齢者が生活を共にしている。事業所の優秀な点として、地域に密着した運営や地域交流が挙げられる。地域からの良好な応援もあり、利用者は日常はじめ様々なイベントや事業所夏祭りで多くの住民とふれ合う機会が持たれている。運営推進委員会でも積極的に事業所情報を開示し、多くの意見等を取り入れ、利用者の豊かな地域生活の継続に活かしている。事業所の広報についても注目したい。家族向けのお便り「びーぐる真駒内便り」を毎月発行し行事等の報告をしている他に、利用者一人ひとりに特化した個人便りも定期的に家族に送っており、認知症への理解のため地域向けのお知らせも定期発行し、2ヶ月ごとの運営推進議事録も含め、個人や地域に向けて情報を各種発信するなど、積極的に活動を展開している。また、医療連携や職員研修を重ねるなどして、利用者と家族の望む終末期もチームとして支援し、毎年数名の看取り介護を実践している。主治医や訪問看護師と連携し、身体面・精神面の健康管理を行うと共に、安全で安心できる支援体制を整えている「グループホームびーぐる真駒内」に今後も大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Contains 10 rows of evaluation items (No. 56-62).

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を毎朝申し送り時に読み合わせ、共有し、日々の支援で実践につなげている。ホームのケア目標を作り、同時に読み合わせ共有している。	法人の運営理念と事業所独自のケア目標は、事務室や各ユニットに掲示している。毎朝の復唱や全体会議を通して理念の理解を深めており、日々の実践に活かせるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入し、町内行事に参加して地域の方々との交流を深めている。町内清掃や資源回収への協力も行っている。又、ホームの行事へも、参加して頂いている。(今年度はコロナ禍のため不参加)	地元町内会に加入し、定期的に戻覧板などでホームの情報を伝えている。町内の清掃・夏祭り・花火大会など地域行事に参加し、ホームの夏祭りや避難訓練などに来てもらう相互交流を深めている。また資源回収に協力するなど、地域とのふれあいを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で町内の方々に、認知症の理解と支援について情報提供し、質問に答えたり話し合いを行っている。年に2回ホームの新聞を発行し町内に回覧し介護に関する情報を発信している。(今年度はコロナ禍のため外部者の参加を制限)		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営状況や活動及び近況、評価への取り組み状況の報告を行い、今後の予定を伝え、参加された方々と話し合い、頂いた意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月ごとに定期的開催しており、会議参加への案内や開催議事録も参加者、関係者、家族宅に毎回送付されている。議題は行事や事故内容、ヒヤリハット等の報告、また地域からの提案、助言などもあり、サービス向上に活かされている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市及び南区のグループホーム連絡協議会へは必ず出席し、情報交換を行い、ホームの取り組みを積極的に伝え、協力関係を築けるように取り組んでいる。生活保護課との連携も行っている。(今年度はコロナ禍のため中止)	行政とは、介護保険の更新や申請で顔見知りとなっており、気軽に相談できる信頼できる関係にある。情報交換も管理者会議やケア連絡会を通じて行われ、また生活保護課とも協力関係にあり、維持強化に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を設置し、状況の把握と報告・勉強会を行っている。職員全員が正しく理解し、拘束をしないケアに取り組んでいる。不適切なケアは職員間で注意し合う体制を作っている。必要な時はご家族に相談し一緒に支え合っている。	従前からの拘束廃止委員会を身体拘束等適正化委員会にあらため、指針を定め2ヶ月に一度の頻度で委員会を開催している。議事内容は日頃の介護の検証と検討であり、また直近の会議で職員にも周知徹底しており、日頃の実践を振り返りながら拘束も抑制もない介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、毎月勉強会を行っている。職員同士で声を掛け合い、虐待が見過ごされることがないように、注意を払い虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い学ぶ機会を持ち、必要性を理解し活用できるよう支援している。カンファレンスでも検討し、保佐人の方とは密に連絡を取り合い、話し合いながら支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前と契約時に十分な説明を行い、不安や疑問点を尋ね、理解・納得して頂けるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見箱を設置している。面会時や電話連絡の際には、意見や要望を確認し、お話を伺い、要望・意見を頂いた時にはすぐに検討し、運営に反映させている。	毎月、ぴーぷる真駒内を発行し、個人別のお便りも年に4回利用者家族宅に送って、本人の生活の様子を伝えている。詳細に情報を見てもらい、意見や苦情、要望に応じている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会議とフロアカンファレンスを開き、意見の交換を行っている。日常的に職員の意見や提案を聞く機会を設けて、運営に反映させている。	日々の申し送り時や全体会議、カンファレンス等で提案を聞いている他に、人事考課制度で年に2回の面談が設定されており、忌憚のない意見交換が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が意欲や向上心を持って働けるよう配慮している。年に2回人事考課を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの能力や経験に応じた外部の研修に、参加する機会を確保している。ホーム内で定期的に勉強会を開催している。(コロナ禍のため外部研修に一部中止があった)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌市及び南区のグループホーム連絡協議会の講習会に参加し、同業者と交流する機会を作り、サービスの質の向上に努めている。(今年度はコロナ禍のため中止)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今まで生活してきた状況を理解し、不安、困りごと、要望を傾聴し、安心感を持って生活できるように、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事、不安に思う事、要望等に耳を傾け、些細な事でも話しやすい環境を作り、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意見や意向を尊重し、利用を開始する段階で、その時に一番必要な支援やサービスを見極めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の生活スタイルを尊重し、自立支援に向けて、残存能力に合わせた作業を一緒に行い、暮らしを共にする者同士として支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には随時近況を報告し、要望を確認している。行事毎に案内状を送り参加をお願いし、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・外出・外泊は自由にでき、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。(今年度はコロナ禍のため制限があり)	家族の訪問が頻繁であり、友人や知人の面会も続いている。馴染みのある床屋や美容室の利用も家族の協力を仰ぎながら取り組んでいる。また墓参りや正月の外泊など、家族との連携で支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一緒に楽しめるレクリエーションや行事と様々なお手伝いを通じて、一人ひとりが孤立せずに関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も本人や家族と関わりを持ち、必要に応じて相談や支援が出来るように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の意向・希望の把握に努め、カンファレンス等で話し合い、可能な限り応えられるよう努めている。困難な場合は、御家族の意見も参考にしながら本人本位に検討している。	生活を支える中で、希望や思いを把握共有して本人の意向に沿えるように努めている。意思疎通が苦手や困難な場合でも、仕草や表情から、また本人の職歴や生活史から、本人本位の生活になるように取り組んでいる。	本人の最終段階への希望や思いの把握は、本人本位の観点から必要と思われるが、職員との話し合い等で事業所として方向性を検討し、より本人の意向に沿えるよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境を把握し、それらを変えることなく、その人らしく生活できるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりをよく観察する事で過ごし方や有する力を把握し、声をかけ、表情を見て、スキンシップする事で心身状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族と話し合い、意向を尊重した介護計画を作成している。状況に応じて主治医や訪問看護師と話し合い、意見を反映し現状に即した介護計画を作成している。	状況に応じて医療や本人、家族の希望を聞き取り介護計画を作成している。モニタリングは利用者の毎日の生活を個人記録に記入し、3か月ごとに見直しを行っている、必要な場合はカンファレンスを行い、現状に合わせている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録に、毎日の状況を事細かに記録し、情報を共有している。必要に応じてカンファレンスを行い、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況やニーズに対応して、既存のサービスに捉われない柔軟な支援とサービスの提供に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事に参加させて頂いたり、資源回収に協力したり、地域のお店に買い物に出かけたり、地域資源を活用しながら豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。(今年度はコロナ禍のため自粛)		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を大切に、納得の得られたかかりつけ医と事業所との間に良好な関係を築き、職員と共に定期的に受診している。月2回の訪問診療も受けている。	月2回提携医による内科の診療、月1回歯科の訪問診療がある。従前よりのかかりつけ医には職員が同行し、受診前と後に家族と情報交換を行っている。事業所には看護師が配置され、健康管理に当たっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は毎日健康チェックを行い、特変や日常生活の中での情報・気づきを看護師に伝え、相談し適切な受診や処置の指示を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携を密にし、常に情報交換や相談を行っている。病院関係者との良好な関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方は、入居時又は早い段階で主治医・本人・家族と話し合いを行い、情報や方針を共有し、職員全員で支援に取り組み、指針も備えている。看取りに関する勉強会を行い理解を深めている。地域の関係者とのチーム支援には取り組んでいない。	契約時に重度化に向けた指針や事業所の対応について、本人や家族に説明し確認を得ている。重度化した場合や終末期には家族と話し合いながら、医療関係者とチームを組み支援を行っている。また機会を見て看取りの研修会を行っている。毎年数名の看取りの支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を作成し、急変や事故発生時に備えている。応急手当や初期対応に関しては、看護師に指導を受け実践力を身に付けている。事故発生時の対応について研修を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の大規模避難訓練を行い、消防署からアドバイスを受けている。毎月、火災や地震・風水害を想定した自主避難訓練を行い、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけている。地域に協力をお願いしている。	毎月自主避難訓練を行っている他に、消防署の指導による年2回の夜間を想定した避難訓練を実施し、訓練には、地域住民も参加している。訓練内容については運営推進会議で報告している。緊急持出し用の避難グッズや緊急連絡網、冬季の暖房機、備蓄類は整備されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護委員会を設置し、毎月勉強会を行っている。個人の人格を尊重しプライバシーを厳守し、言葉かけや対応に十分注意をしている。	接遇が介護の基本であることを理解し、トイレ誘導や入浴時の対応を丁寧に行う等、尊厳を損なう事のないように努めている。特に当事業所のトイレには、介護への熱意が端的に表れている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表現しやすい環境作りに努め、思いを引き出し、自己決定出来るように働きかけている。自己決定出来ない利用者の思いを本人の立場で考え理解できるよう、努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先する事なく、本人本位で、一人ひとりのペースを尊重し、その人の望む暮らしができるように、希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みを尊重し、本人の望む化粧品や衣類は職員と一緒に購入しに出かけたり、御家族に持参して頂いている。理美容は希望に応じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好物を取り入れたり、行事食の提供やバイキングを行い、食事が楽しみになるように工夫している。残存能力に応じて利用者と職員と一緒に準備や盛り付け、後片付けをしている。	食材購入や献立は業者に委託し、空いた時間を利用者に接する時間にしている。食材の中から利用者の好みの食事を一緒に調理したり、盛り付けや後片づけをしている。行事食や誕生会の食事などは利用者の好みや要望に合うようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス・食事量・水分量は毎日チェックし、一日の必要量を摂れるよう支援している。個々の状態に合わせた調理方法や盛り付けを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの状態に応じた口腔ケアを行っている。一人で行えない方は職員が介助し清潔を保持している。義歯は毎食後洗浄し、夜間は消毒している。定期的に訪問歯科を受診している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を作り排泄パターンを把握し、時間や様子を見て誘導し、トイレで排泄が出来るように自立に向けた支援を行っている。	排泄はトイレで行うことを基本とし、排泄の誘導も時間と仕草やサインを読み取って行っている。食べ物や軽い運動も取り入れて、自然な排泄になるように排泄の支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や影響を理解し、飲食物の工夫や水分量の調整、適度な運動、腹部マッサージ等を行い個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の身体状況に合わせた入浴時間や入浴方法で、入浴を楽しめるように支援している。曜日や時間帯は決めておらず、いつでも入浴できるようにしている。入浴剤を使用したり、入浴時には1対1でゆっくりお喋りリラックスして頂いている。	入浴は毎日お湯を入れて準備し、週に最低限2回は入浴できる様取り組んでおり、入浴拒否者には無理強いをする事無く、時間や担当者を変えながら気持ちの良い入浴になるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	使い慣れた布団や枕を使用し、照明にも配慮し安眠して頂けるような環境作りをしている。昼食後は臥床時間を設けている。状況や希望に応じて休息し、体を休めて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の用法や用量、副作用については、薬剤情報を読んで理解している。薬剤師のアドバイスも受けて理解を深めている。服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日様々なレクリエーションで楽しめる事を提供し、外出や行事で気分転換の支援をしている。個々の生活歴を把握し、能力を活かした役割をお願いして張り合いを感じて頂いている。嗜好品も理解し提供している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望に沿って、散歩・外食・買い物・ドライブ等に出かけられるよう支援に努めている。家族とも協力して希望に添えるようにしている。(今年度はコロナ禍のため一部自粛)	季節のドライブの他、近所の散策や付近のお店へのお出かけ、天候と相談しながら高い頻度で外出しており、間近にある運動公園には弁当持参で出掛ける等、閉じこもらない・閉じ込めない介護を実践している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は本人がお金を持つことの大切さを理解している。自己管理が出来る利用者には金銭管理をして頂いている。一緒に買い物にも出かけている。(今年度はコロナ禍のため自粛)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内の電話を自由に使用出来るようにしている。又、手紙の代筆も行い、家族や大切な人とやり取りが出来るように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に不快や混乱を招く刺激物を置かないように配慮している。写真や花、季節感を取り入れたレクリエーション作品を飾り、居心地よく過ごせるように工夫している。	中央のキッチンを囲んで、居室・浴室・3カ所のトイレ・居間・食堂があり、ゆったりとして開放感がある。居間の大きな窓から明るい陽射しが差し込み、四季の移り変わりが楽しめる。回廊式の廊下の壁には行事や季節感を取り入れた手作りの作品が飾られている。施設内は冷暖房のエアコン・加湿器の設備と季節毎に温度・湿度・換気に気を配り適切に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部分にあるソファで利用者同士が談笑できたり、一人掛け椅子を設置し、独りで過ごせたり等思い思いに自由に過ごせるように居場所の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、使い慣れた家具や身の回りの物を持参して頂き、好みの物に囲まれて、本人が居心地よく安心して過ごせるように工夫している。	居室には、家から使い慣れた家具や馴染の物を持ち込み、家族の写真や装飾品が飾られている。各室はそれぞれ自分らしく寛げるようになっている。備え付け収納棚があり整理整頓され、毎日利用者とともに行う清掃で清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーとなっており、安全に生活できるようにになっている。随所に手すりを取り付け転倒防止に努めている。トイレの表示も解りやすくしている。		